



インフルエンザの流行時期が近づいてきました！

感染制御部

インフルエンザの流行に備えて、11月7日からインフルエンザワクチン接種を実施してきました。今年度は外注業者も含め 2484 名の病院職員の方への接種を終了しています(表1)。ご協力くださったリンクドクター、リンクナースの皆様ありがとうございます。

今月は職員の皆様のインフルエンザ予防対策についてのお話です。



医師	822
研修医	66
看護師	552
薬剤師	55
医療技術技師	71
医療系技術職員	127
事務	255
その他	36
ボランティア	39
外注業者	461
合計	2484

表1. インフルエンザ接種人数

1. インフルエンザの予防

インフルエンザの予防の第1はワクチンの接種ですが、マスクの着用も重要です。インフルエンザは**飛沫感染**が主な感染経路です。患者様と接するときにはマスクの着用により感染を防ぐことができます。その他にも一般的な感冒予防も含めて、うがいや手洗いも有効と考えられます。



2. インフルエンザの症状

インフルエンザの症状は発熱(通常 38°C以上の高熱)・頭痛・全身の倦怠感・筋肉痛などが突然現れ、咳・鼻汁などの上気道炎症状がこれに続き、約1週間の経過で軽快するのが典型的です。

3. 職員にインフルエンザ罹患を疑う場合

出勤前にインフルエンザ様症状がある場合

- 必ず近医を受診し、診断を受ける。

就業中にインフルエンザ様症状がある場合

- サージカルマスクを着用する。

★平日(8:15~17:15)

- 感染制御部に電話し、速やかに総合診療外来を受診する。

※受診の際に特定療養費(非紹介患者初診料加算額:5250円)が発生する場合は免除されるので、必ず受診前に感染制御部に連絡する。

★平日夜間(17:15~翌8:30)、土曜/日曜/祝祭日(全日)

- 事務当直にて時間外受診手続きをし、時間外インフルエンザ迅速診断の手順に添って検査を行う。

【時間外インフルエンザ迅速診断の手順】

- ① 検査部当直の職員に採取綿棒の配布を申し込み、2階緊急検査室へ採取綿棒を取りに行く。
- ② 感染症迅速検査画面よりインフルエンザ検査をオーダーし、バーコードを出力する。
- ③ 検体の採取方法に準じて採取する(採取方法は2階緊急検査室にある)。
- ④ 検体とバーコードを2階緊急検査室へ届ける。
- ⑤ 約20分で検査部当直の職員がより判定結果が連絡される。
- ⑥ 翌朝8:00までに採取綿棒と一緒に渡される「時間外職員インフルエンザ受診報告書」をFAXで感染制御部に送る(FAXがないものに関しては特定療養費免除の手続きが行えない)。

《抗原チェック陽性の場合》

- インフルエンザと診断された場合は勤務を控え、解熱後2日間の自宅療養の後、職場復帰する。
- それ以前に勤務を始める場合は当院の外来または近医にて抗原検査を受け、陰性であることを確認する。
- 「インフルエンザ発生報告書」をFAXで感染制御部に送る。

《抗原チェック陰性の場合》

※臨床的にインフルエンザと診断された場合には抗原チェック陽性の場合に準じる。それ以外は以下の対応をとる。

- 自宅にて解熱まで療養し、通常の感冒と同様に解熱後勤務に復帰する。
- 念のため職場復帰後2日間はマスク着用の上勤務する。
- 発熱が持続する場合、近医受診のうえ再度診断、加療を続ける。

4. 抗インフルエンザ薬の予防投与

接触**患者**でリスクのある場合は主治医の判断で抗インフルエンザ薬の予防投与も考慮します。

予防投与を行う場合は院内感染対策費にて対応しますので、感染制御部にご連絡下さい。



病院で働く職員としてインフルエンザに罹患しないよう、日頃から予防を心がけましょう。

また発熱などの症状がある場合は無理に働かず、早期に受診するようにしてください。

感染管理マニュアルの「インフルエンザ」の項もご参照ください。